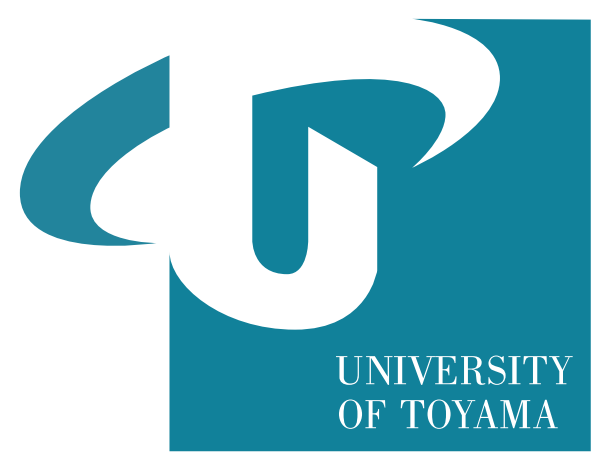




富山大学 地域再生塾「高度差4000」

目指すもの

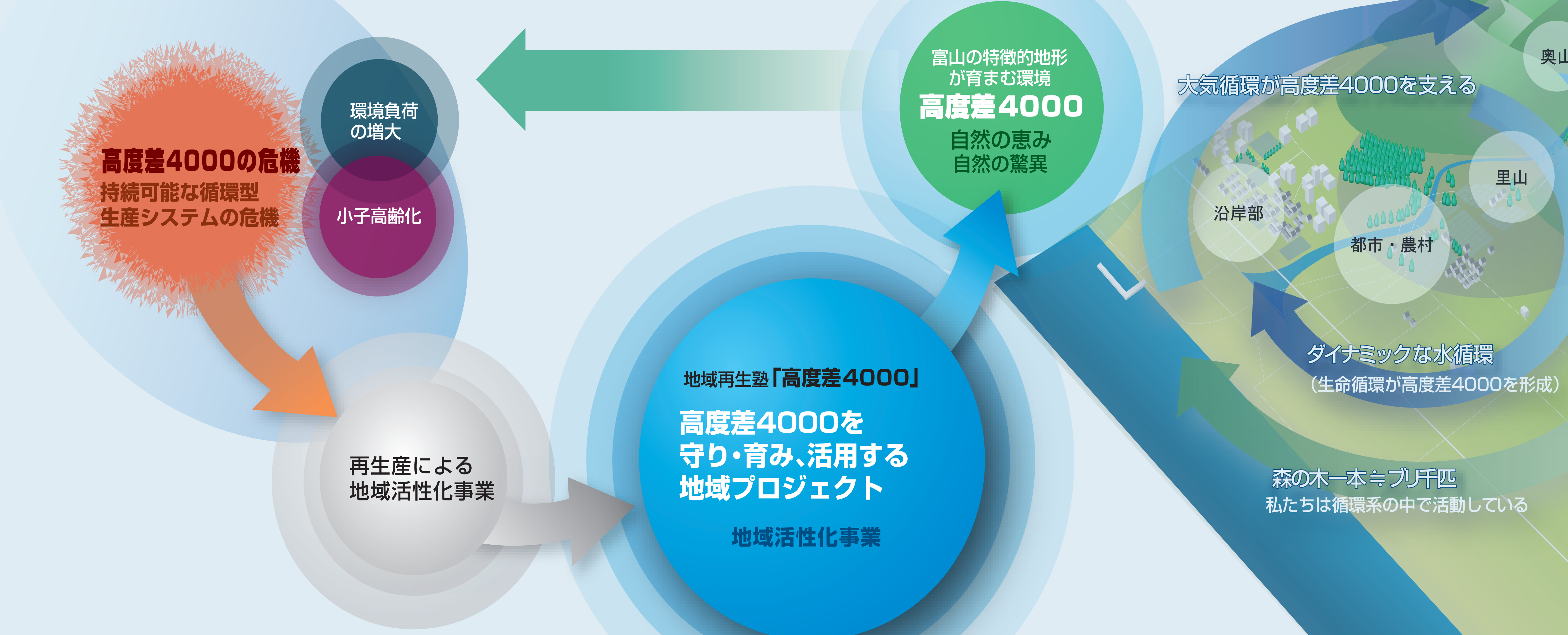
地域再生塾「高度差4000」は、富山大学の持つ自然科学・社会科学の知識を習得し豊かな恵みを守り育みながら地域活性化へと繋げ新しい経済活動を実践する人材を育成します。

「高度差4000」とは

水平方向わずか100kmにある、高さ3000mの立山連峰から深海1000mの富山湾までの高度差4000mを超える流域圏が、自然の恵みや生活基盤を育み、一方で私たちは高度差4000が引き起こす自然の驚異にも立ち向かうことで豊かな暮らしを実践してきました。

しかし、豊かな暮らしの代償として、環境負荷の増大、超少子高齢化に伴う里山の荒廃などによる持続可能な循環型生産システムである高度差4000が危機にさらされています。

このことから地球環境にとって、安定して続く地域活性力と同時に、内発型及び協働型の地域づくりが不可欠と考えられます。この考えを基礎として地域資源を生かすことのできる人材を養成するプロジェクトが地域再生塾「高度差4000」です。



本講座は、低炭素・循環型及び生物多様性社会構築を展望した富山を象徴するコンセプト「高度差4000」を掲げ、塾生が以下を目指すものです。

- 目指す人材像
1. 自然環境などの高度差4000の因果や低炭素・循環型及び生物多様性社会構築の姿を学び
 2. ディスカッションを重視した模索により、企業、市民、行政の各行動を見つめ直し
 3. 地域発展に向けた新たな挑戦としてのアクションプランの立案と提起を行う人材育成を目指す。

高度差4000を守り・育み、活用する地域プロジェクト

例えば、農林水産、食料品・飲料製造業、食料品卸・小売業等による事業アクション

高度差4000を守り・育むための環境保全の活動と、消費者ニーズに即したビジネス活動を組み込み、消費者が望む、環境と経済の両立しうる安全安心な地産地消商品やブランド育成に挑戦する。

高度差4000資源循環を富の循環へ

塾生の提案例／水産物卸売業

～シロエビの「殻」を農業に活用～

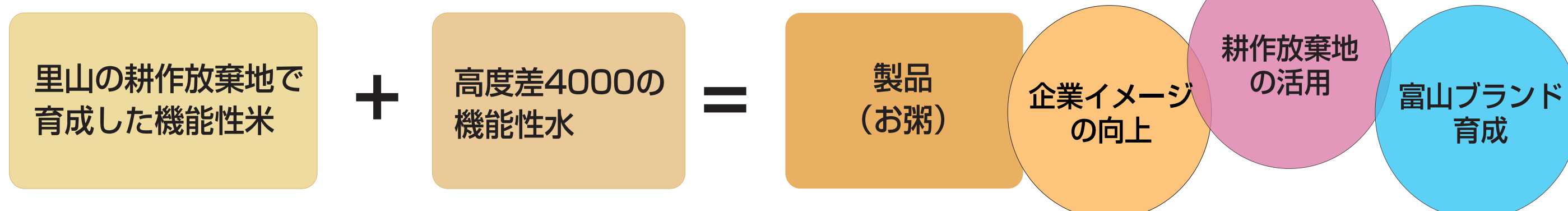
標高3000m級の立山連峰から深海1000mに達する富山湾。高度差4000の恵まれた自然環境を保全していくには、そこに暮らし活動する人たちが豊かであることが必要ではないでしょうか。しかし現在の厳しい経済環境下では、農畜水産業、それぞれ個別の経営努力だけでは立ち行かなくなってきました。高度差4000プロジェクトのもとで、農畜水産業者が連携しそれぞれの製品の付加価値を高めて活性化し、高度差4000・富の循環を完成させます。



「里山で作る機能性米と高度差4000のマッチング」

塾生の提案例／飲料製造業

里山は自然と人間の営みが対話する場であり両者バランスを保つ上で重要ですが中山間地域における耕作放棄面積が増加しこれまで培ってきた高度差4000の特徴を生かした【低炭素社会・循環型社会・生物多様性社会】が崩壊する危機が迫っています。里山の耕作放棄地で育成した機能性米と高度差4000の機能性水で魅力ある製品づくりと里山の活性化を図ることで、高度差4000を守り・育み、活用による地域活性化に挑戦します。



例えば、観光業によるアクション

高度差4000に潜む低炭素・循環系・生物多様性の連鎖や地域資源の付加価値を学び、自社の観光サービスに、新サービスの礎(いしずえ)である環境保全活動を融合する新商品として、グリーンツーリズム商品、ブルーツーリズム商品、癒しと健康増進商品等を開発し、高度差4000を守り・育みながら交流人口を拡大し、高度差4000を活用した地域再生に挑戦する。このような商品に消費者は動くのである。

例えば、地域金融機関によるアクション

地域経済・取引先との共存共栄を目指し、取引先企業の経営課題を解決する「本業支援」が地域に根ざす金融機関としてこれからの姿であると認識し、農林水産関係業者・観光業者・建設業者・地域メディア等の優良顧客を塾生に斡旋し、顧客とともに高度差4000アクションプラン育成に向けたハンズオン支援といった地域再生塾「高度差4000」への積極支援とともに、高度差4000金融商品の開発などにより、高度差4000を守り育みつつ、地域金融機関の企業価値の向上に挑戦した。

地域メディアによるアクション

土木業者によるアクション

建築事業者によるアクション